

■インド：タタ電力、輸入炭を利用する火力発電所の建設を加速

2012年6月15日付の地元紙の報道によると、インド最大の民間電力会社のタタパワーが、今後、輸入炭を燃料とする火力発電所の建設を進めることを明らかにした。同社は、2012年3月に運開したグジャラート州のムンドラ発電所（総発電設備容量：4,000MW）と、マハラシュトラ州 Dherand で計画中の発電所（総発電設備容量：1,600MW）で輸入炭を使用するとしている。2つの発電所の設備容量は、同社の現在の設備容量 3,120MW を上回る。タタは既にインドネシアの主要石炭会社の株式を 30%保有し、国内ではオリッサ州とジャルカンド州で炭鉱開発を行っている。